

「三日間をふり返って」

ニュージャーシー日本人学校小3

野村 みさと



の合図よりはやく教室に帰ったりしていました。教室は、しーんとしていて、先生の音も聞こえませんでした。

よう、なれない休み時間、なれない教室があつたとしても、ゆう気をもつことが大切だと思いました。二つ目は、一人でもり上がつても、しょうがないのですが、ふだんから明るくなること、が大切だと思いました。来年は、四年生になつてフロストバレーに行けるので、とても楽しみです。

(滞米4年)

三日間四年生が「フロストバレー」でいかなかったので、教室がしずかでした。わたしのそうぞうしたい上にしずかで、さびしくて、心細くて、わらうどころではありませんでした。親友のみあちゃんもいなくて、メイブルタイムは、一、二年生と遊びました。なれないので、だまつてしまつたり、休み時間終りよう

じゅぎょうは、いそや先生がいなくて、教科は算数と、理科、社会、ART、E.S.L.だけで、国語は一回だけで、ほかの先生ばかりでなんか、いつもちがうような気がしてなかなか集中できませんでした。メイブルタイムなどの時間に、「四、五年生は、今なにをしているのだろう。」「お昼」は、何を食べているのだろう。」と、気になつてしかたがなくて、「電話でもしたい。」と思う

こともありました。四年生がいないだけで、こんなにかわるなんて、と思いが、トレジャーにうつつて、みんなの顔を見ていたり、四年生がいる時のことを思い出したりしていました。家で妹が、「四年生は、いないけどがんばつてね。」と、言つてくれました。前に、大親友が日本へ帰つた時の夜、大きい声でなきました。あの時ほどではなかつたけれど、夜のゆめの中で、自分がいたように思えました。わたしは、このたつた三日間で、一人になつて気がついたことがありました。一つ目は、なれないじゅぎ